

第一章 調査概要

(1) 調査目的

広島県内企業で就労する技能実習生や、広島県内教育機関に通う留学生等の今後の就労意向や就労する場合の条件、課題、現在の生活実態等を調査し、今後の取り組みにおける検討の基礎資料を作成することを目的とする。

(2) 調査対象

【郵送調査】

- ①広島県内の企業で就労する技能実習生 2,402 人
- ②広島県内の日本語教育機関等及び大学等に在籍する留学生 2,064 人
(日本語教育機関等：979 人 大学等：1,085 人)
- ③公益財団法人ひろしま国際センターへの来所者（相談窓口及びその他一般外国人） 86 人

(3) 調査方法

- ・郵送によるアンケート調査
- ・グループインタビュー調査

(4) 回収状況等

【郵送アンケート調査】

		対象者数（人）	回収数（人）	回収率（％）
①技能実習生		2,402	1,311	54.6%
②留学生	日本語教育機関等	979	610	62.3%
	大学生等	1,085	261	24.1%
③一般外国人		86	50	58.1%

※集計対象者の定義については、「(8) 備考」に記載

【グループインタビュー調査】

- ①広島県内の企業で就労する技能実習生 9 名
- ②広島県内の日本語教育機関及び大学に在籍する留学生 21 名
(日本語教育機関 15 名 大学：6 名)

(5) 調査期間

【郵送調査】

令和元年 9 月 4 日～令和元年 10 月 24 日

【グループインタビュー調査】

令和元年 12 月 3 日～令和元年 12 月 13 日

(6) 実施機関

株式会社日本統計センター

(7) 調査結果の見方

調査結果の数値は、回答率(%)で表示している。回答率(%)の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数であり、その数はNで示している（各質問における無回答者を除外した回答者の総数を示している）。

回答率(%)については、小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。このため、その合計数値は必ずしも100%とはならない場合がある。

出身国、在留期間、日本語習熟度などの内訳を表示している場合、属性について未回答である者が存在するため、内訳の合計は全体の合計と必ずしも一致しないことがある。

(8) 備考

■技能実習生の定義

在留資格が「技能実習」であり、居住地域及び就業地域を広島県内としている1,311人を「技能実習生」として集計対象とした。

出身国	ベトナム	中国	フィリピン	インドネシア	その他	不明	合計
集計対象	498人	498人	150人	101人	55人	9人	1,311人

■日本語学校生等の定義

在留資格が「留学」かつ現在の留学先が県内の「専修学校専門課程（専門学校）」及び「日本語教育機関（日本語学校）」と回答した610人を「日本語学校生等」として集計対象とした。

国籍	ベトナム	中国	ネパール	その他	不明	合計
集計対象	425人	83人	50人	50人	2人	610人

■大学生等の定義

在留資格が「留学」かつ現在の留学先が県内の「大学院（博士コース、修士コース）」、「専門職大学院課程」、「大学の学部正規課程」、「短期大学」、「準備教育課程」、「その他（研究生等）」と回答した261人を「大学生等」として集計対象とした。

国籍	ベトナム	中国	その他	不明	合計
集計対象	58人	151人	52人	0人	261人

■一般外国人の定義

在留資格が「留学」以外と回答した対象者50名を「一般外国人」として集計対象とした。

国籍	ベトナム	中国	その他	不明	合計
集計対象	13人	16人	19人	2人	50人

■就業地域及び居住地域の集約について

就業地域及び居住地域を以下の4地域に集約し、集計を行った。

北部地域：三次市、庄原市、安芸高田市、安芸太田町、北広島町
 東部地域：三原市、尾道市、福山市、府中市、世羅町、神石高原町
 中部地域：呉市、竹原市、東広島市、江田島市、大崎上島町
 西部地域：広島市、大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町

■日本語の習熟度による集計について

本調査では、外国人が自覚している日本語習熟度による就労・生活環境の課題などの傾向をみるため、日本語能力に関する設問の回答結果をもとに、日本語の習熟度を「習熟度【高】」、「習熟度【中】」、「習熟度【低】」の3段階に分類し、集計を行った。よって、本調査の習熟度の分類は、試験等の結果に基づく客観的な指標ではない。

なお、日本語の習熟度分類における定義は、以下のとおりである。

手順①：日本語能力に関する設問の結果を集約

技能実習生における調査票のQ19、留学生・一般外国人における調査票のQ22の各設問において、「会話」、「読み」、「書き」の回答結果を下表の区分により「できる」、「できない」に類別した。

	「できる」	「できない」
①日本語で会話する	「3.できる」と回答	「1.ほとんどできない」、「2.少しできる」と回答
②ひらがな・カタカナを読む	「3.できる」と回答	「1.ほとんどできない」、「2.少しできる」と回答
③漢字を読む	「3.できる」と回答	「1.ほとんどできない」、「2.少しできる」と回答
④ひらがな・カタカナで書く	「3.できる」と回答	「1.ほとんどできない」、「2.少しできる」と回答
⑤漢字を使って日本語を書く	「3.できる」と回答	「1.ほとんどできない」、「2.少しできる」と回答

手順②：類別した区分「できる」、「できない」に該当する回答の個数に応じて、日本語の習熟度に分類
 手順①で集約したカテゴリの個数に応じて、以下のように日本語の習熟度を分類した。

日本語の習熟度	類別した区分に該当する回答の個数
①習熟度【高】	「できる」が4個以上
②習熟度【中】	「できる」が2個または3個
③習熟度【低】	「できる」が1個以下



◆対象者別日本語習熟度の分類結果

	①習熟度【高】	②習熟度【中】	③習熟度【低】
技能実習生	8.8% (98人/1,120人)	59.1% (662人/1,120人)	32.1% (360人/1,120人)
日本語学校生等	28.5% (153人/537人)	58.8% (316人/537人)	12.7% (68人/537人)
大学生等	70.6% (175人/248人)	20.2% (50人/248人)	9.3% (23人/248人)

※ () 内は、それぞれの実数値